

1. 学校の教育目標

教育理念

人々の健康や幸福を願う気持ちを大切にし、豊かな人間性を兼ね備えるとともに専門職業人として知識・技能を研鑽し、社会から求められる理学療法士を育成する。

養成する人材像

- ・豊かな人間性を持ち、人々の健康や幸福を願う気持ちを大切にすることができる。
- ・医療・介護・福祉・スポーツ等の分野において（多岐にわたり）幅広く活躍できる。
- ・障害予防から発生、慢性期に至るまで、適確な状況判断と処置を行うことができる。

教育目標

- ・人々の健康と幸福を願う気持ちを育む。
- ・自ら学び、最新の医学知識と技術を基に旺盛な研究心を有している。
- ・根拠に基づく論理的思考を持って理学療法を実践できる。
- ・他職種と信頼関係を構築し協働出来る豊かな人間性をそなえている。
- ・医療技術者として知識と技術を基に社会に貢献できる。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

教育

- ・理学療法士作業療法士養成施設指定規則の改正に伴う教育課程の編成と見直しを実施する。
- ・学生の基礎学力・実習の質・国家試験合格率の向上、教職員のキャリアアップ推進、教具を充実化させ教育の質を高めていく。

学校運営

- ・学校運営を進めるにあたりガバナンスの取れた組織運営を適正に実施していく。
- ・学生募集を積極的に実施し新入生の定員確保を推進していく。

その他

- ・学生支援
学内の奨学金を充実させ、学費負担者の経済的支援を拡大させる。
- ・広報委員会・倫理委員会の発足および規定の作成と制定していく。
ハラスメントの防止及び対策の制定を進めていく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) .教育理念・目標

No.	評価項目	現状・課題・改善方策・特記事項等
1.01	・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	リハビリテーションに携わる人材育成の為に多岐に渡って活躍できる内容が具体的に定められている。 パンフレットに掲載している表現と異なっているため、表現の仕方を統一する必要がある。 ポリシーに明文化されている。 多岐にわたり幅広く活躍できると記載されているが、一部の科目の授業時間数のバランスがとれていない。内科の授業との割合が極端に少なく、学生も国家試験の際に内科分野の問題に苦手意識がある。授業時間を従来通りの回数に調整し、今後の臨床でも必要となる生理学を中心とした内科の疾患も取り入れる必要がある。 授業において知識・技能の研鑽だけでなく様々な学校行事を積み重ね豊かな人間性を育む教育をしている。
1.02	・学校における職業教育の特色は何か	リハビリテーションに携わる人材育成の為に多岐に渡って活躍できる内容が定められているが、今後はよりバリエーションを増やしていくことも検討したい。 学校経営者、教職員が学生の人間性の教育に主眼を置いている。 専門職としての知識・技術の基本は授業において多くの時間をさいている。また、体の動きの基本中の基本についても時間を多くかけている。 スポーツ障害領域は比較的適切に行われている。複数の領域を行っていくことが望まれる。
1.03	・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	超高齢社会に合わせたカリキュラム立案という点においては充分ではない。 専修学校としての理学療法士養成校として役割を担っていたため、今後は大学の設置に向けた活動を模索し始め、大学申請に向けた取り組みを具体化する必要がある。 入学者に対して、卒業社会で活躍できるような教育を意識的に行っているが、退学者の存在、入学者の減少を踏まえると適切とは言えない。改善案として入学者を増やすことが社会的ニーズに繋がっていると考えられる。 学校としては、将来の大学設置を目指すなど将来構想は抱いていると思う。
1.04	・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	特色・育成人材像に関してはホームページに記載があるが、学校ホームページやパンフレットに僅かに記載されているものの、充分ではない。 大学設置に向けた取り組みに着手し始めたこともあり、今後関連団体とも協議するなかで、学生・保護者に向け情報をホームページなどを活用して周知する必要がある。
1.05	・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	介護・福祉の分野に対する講義は充実しているため、今後は関連分野の実践的な職業教育（臨床実習）の充実が急務である。 教育目標、育成人材像は、理学療法士の業界のニーズに沿っている。 今後指定規則改定に伴った動きをする予定 患者様の為になる、質の高い理学療法士を育成している。このことより業界のニーズに方向づけられている。

(2) .学校運営

2.01	・目的等に沿った運営方針が策定されているか	国家試験合格という点においては方針が定まっている。 概ね養成校としての役割は担えているため、今後は教職員の人材育成が必要である。 組織として特に事務局の人員不足のため不明瞭に感じている。改善案として事務局の充実をすすめていく。 学則・細則に則りカリキュラム等が作成されているため方針は定められている。
2.02	・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	人材流出の影響もあり当初の事業計画の骨子を十分吟味できなかったため、喫緊に事業計画としての骨子を策定する必要がある。 カリキュラム・行事など方針に沿った計画が策定されている。
2.03	・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	

No.	評価項目
	現状・課題・改善方策・特記事項等
	意思決定者ははっきりしているが、規則等は明確化されていない。改善案として、事務の充実とともにガバナンスの見直しをしていく。
2.04	・人事、給与に関する規程等は整備されているか 入職時は簡易な規程を確認することが出来るため、今後は要請があった際は迅速に提示できるよう整備される必要がある。
2.05	・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか 教務活動における組織整備に不十分さが残り、今後組織としての意思決定機能が適切に整備される必要がある。 学校全体として、全体会議があり意思決定システムは整備されていると思う。 協議書の稟議システムは整備されている。
2.06	・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ある部分のみ職業教育現場に対して手引きや口頭の説明で伝えていたため、今後はすべての内容に関して明文化に向けた取り組みが必要である。 指定規則に従っているが、地域との関わりはほとんどない。改善案として、士会活動や地域活動への協力を 業界・地域社会からの意見に対しては、事務局・教務でまとめ学院長への報告し対応を取っている。
2.07	・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか 学校ホームページを活用し、日々の教職員の活動や学校活動について公開しているため、今後は情報公開として必要な項目を再検討する必要性がある。 行事等に関してはホームページなどで公開している。教育に関して今後情報公開が必要になる。
2.08	・情報システム化等による業務の効率化が図られているか 学生に関する情報について一元管理することが可能となったため、今後は教職員同士での学生に関わる情報の共有化に向けたシステム構築が必要である。 共有ファイルが全校舎で見ることができないため、情報の共有もできず非常に不便。改善案としてネット環境の整備をしていく。 情報システムとしては、少しずつ進行しているが、すべての業務に関してまで広がっていない。 インフォクラウドを活用したデータベースの管理・共有は出来ている

(3) . 教育活動

- | | |
|------|---|
| 3.01 | ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか
必要とされる教育課程の編成が整い実施されているものの、今後は新たな指定規則への対応について検討する必要がある。
理念に沿った科目は充当していると思われる。
各学年毎に履修し達成すべき目的に応じた課程が組まれている。
厚労省が定めている単位を確保し、指定規則に則って策定されている。 |
| | 教育課程は指定規則に制限されるが、教育理念に基づいて学生に関わっていると思う。しかし、公開不足と退学者、休学者が生じてしまっている。改善案として、教育理念の公開をすすめていく。 |
| | カリキュラムにおいて策定されている。 |
| 3.02 | ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
シラバスに則っている。
概ね各学年として必要な教育到達レベルに達する教授活動が行われているため、今後は未達成の恐れがある学生へのフォローアップについて検討する必要がある。
業界のニーズ把握は不十分ながら、学習時間は十分に確保している。
高度専門士を取得できる程度の学習時間は確保できている。
厚労省が定めている単位以上を確保している。
明確になされている。その結果、高度専門士が付与されている。 |
| 3.03 | ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
指定規則に則って編成されている。
概ね各学年で修業すべくカリキュラムが設定されているため、今後は柔軟な対応もできるカリキュラムの必要性も検討する必要がある。
指定規則改定に合わせてより体系的なカリキュラム編成を試みている。
各教員にある程度均等に振り分けられている。
整形分野に特化している傾向が見受けられる
カリキュラム委員会の設置が急務と思われる。
指定規則に準じたカリキュラムであるため |

No.	評価項目
3.04	現状・課題・改善方策・特記事項等 ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか 各学年担任が主導となり、学生の特性を活かしたカリキュラムを展開しているため、引き続き学生主体のカリキュラムを構築する必要がある。 実習時間は比較的多く、適切であろうと考える。 指定規則改定に応じてキャリア教育、職業教育の視点に立ったカリキュラム編成を行っている。 実践的な職業教育のために、臨床実習や学内臨床セミナーを行っている。 昨今の時代に沿った教育内容ならびに科目設定が難しい 臨床家を目指していることの意識は各教員も強く感じながら行っている。改善案として、学生のレベルに合わせた対応は心掛けていく必要があると思われる。 カリキュラム委員会を設置して議論、全体会議での周知が望まれる。 臨床実習を踏まえた授業が実施されている。
3.05	・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか 関係施設などからの要請もあり、新たな試み（実習前評価）を実施を試みたため、今後はその内容・項目について再構築する必要がある。 指定規則に準じた作成・見直しを実施している。現在、関連施設や業界団体との連携はほとんどないが、今後実習指導者の実習指導技能の向上に講習を実施し、連携を深めることとなる。 臨床実習は協力体制といえるが、カリキュラム作成等に関連分野の関りが少ない。改善案として今後、学校関係者評価が望まれる。 臨床実習施設や協会からの情報に基づいて、指定規則から外れない範囲で行われている。
3.06	・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか 理学療法士に必要な実技習得を目的とした授業及び臨床実習にてなされている。 職業教育（臨床実習）としては充分整備されている状態ではあるものの、今後は介護・福祉に関わる施設への職業教育を推し進める必要がある。 実習時間は比較的多く、適切であろうと考える。 実習に向けたカリキュラム編成が成されている。 臨床実習や学内の実技を段階的に学べるような体系的なカリキュラムを設定している。 厚労省が定めている実習時間を確保している 臨床実習は段階的であり、指導者会議、実習地訪問を含めると要件を満たしていると考えられる。
3.07	・授業評価の実施・評価体制はあるか 個々の教員による授業評価であるため、今後は学校として統一した形式で評価体制を構築する必要がある。 個人的にアンケートを取ることはあるが、各授業に対する評価は実施していない。 学校全体として評価体制はない。科目別に試験内で講義評価の記載を求めることはある。しかし、試験上での評価は無記名でないため正確性に欠ける。 個別に行っている教員はいるが、体制は整っていない。今後は体制を整える必要がある。学内全体として授業評価を行っていないため。 未実施である。第3者介入して、匿名で学生からの授業評価等を行う必要がある。 統一されたものはなく、担当教員個別に任されている。改善案として、統一された評価の検討を行っていく。 学生からの授業評価、教員個人の自己評価システムを作るべき。 授業評価については、個人レベルなどで行われており、体制は無い。今後整備する必要性がある。
3.08	・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか 職業教育（臨床実習）に関しては、新たな試みを行い一定の評価を受けれたため、今後は評価の内容、項目を吟味し準備する必要がある。 実習施設に学校教育の問題点などの指摘を受けられるよう実習後要望書の提出を依頼している。
3.09	・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか 学生の特性が違うこともあり、会議によって都度、基準を設定していたため、今後は開示できる程度の基準を設ける必要がある。

No.	評価項目
	現状・課題・改善方策・特記事項等 進級、卒業は判定会議で行っているが、議事録の記録がなく、基準の明文化もされていない。ただし、公平性を損なうような判定はしていない。 基準はあるが卒業・進級判定会議・科目によっては例外が生じることがあるため基準を一定にする必要がある。 学則、細則はあるものの、特定の科目の可否に比重が置かれている状況である。 成績については、前・後期の試験がありそれを基に進級判定会議が開催される。卒業に関しては、卒業試験が複数回ありそれを基に卒業判定会議が開催される。 定期試験での評価はあるが、進級・卒業判定は明確な基準がないと考える
3. 10	・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか 理学療法士資格取得に向けて、改善の余地はあるが年次ごとに組まれている。 資格修得に向けた指導体制には自信があるものの、今後は学生の特性に沿った指導を展開する必要がある。 国家試験対策に関しては外部教員も導入し、比較的充実していると思われる。 国家試験取得を目的とした時間を確保している。 国家資格取得に向けて、1年次から体系的なカリキュラム体制で実施している。また4年次には国家試験対策を長期間にわたり実施している。 担任制をとっており、学生の資格取得に向けた経時的な指導を行っている。 厚労省が定める単位を確保している 基礎科目から専門科目への学年配置は資格を目指す前提で配置されているが、科目によっては実施時期がまばらやかたまることがある。 各施設で働く卒業生による就職体験談などを行った方がいいと思う。 国家試験対策授業が組まれており、非常勤講師、常勤教員により授業を展開している。
3. 11	・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 確保はされているが、目標達成に向けては恒常的な努力を要する。 専門分野に関する知識・技能を持った人材は多く存在しているものの、今後は確保した人材を育成するマネジメントが必要である。 要件を備えた教員が確保できている。 大学教員のように、実績に基づいた配置とはいえないが、各教員は担当科目を継続することによって熟練してきていると思われる。改善案として、事務仕事によって時間が割かれるので教務に費やす時間を増やしていく。 各施設で勤務経験のある教員はいるし、外部講師の選出もしているがさらに実施すべき。 様々な分野に精通した教員がおり、実際に活動している。また、非常勤講師についても分野に応じた、講師に講義を依頼している。
3. 12	・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか 専任教員が担当することが多く、各専門分野に精通する教員を招く必要がある。 専門分野で秀でた人材を確保し授業を展開しているため、同じ人材が継続的に授業を担保できるようフォローアップする必要がある。 関連分野における優れた教員(兼務)を確保できている。 研修の参加が乏しい 各教員は、実習地の確保に向けた意識を持っていると思われる。少数ではあるが協会業務にも携わっている。改善案として、教員の外部への意識付けをすすめる。 教員は、臨床を経験してきており、業界との連携はとれている。加えて、東京都理学療法士協会の理事をしている教員もいる。 非常勤教員は関連分野や隣接領域の長けた方が多い。
3. 13	・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか 情報共有はされているが、活用するかは個人に一任されている。 教員自身の知識・技能を高めるべく研修を実施しているため、今後は教員としての研究および質の担保を図るために積極的な参加を促すための支援の機会を与える必要がある。 研修や教員指導力育成の取り組みは個人に担われている。改善案として研修費の使用できる範囲を広げていく。研修費の使用方法が限られているため。また、資質の向上が個人に担われているため。 組織として行っていない。改善案として、FDを充実させていく。 職員には、研修などに参加する機会がある。
3. 14	・職員の能力開発のための研修等が行われているか

No.	評価項目 現状・課題・改善方策・特記事項等 限られた職務条件のなかで研修を実施しているため、今後は十分な能力開発に向けた研修支援策が必要である。 行なわれておらず、改善案として、FDを充実させていく。 能力開発に関係する研修は1週間に1回の研修日で対応している。
-----	--

(4) . 学修成果

4.01	・就職率の向上が図られているか 安定した就職率を残している。 概ね希望する就職先に入職している学生が多いものの、今後は求人先と学生の就職先が一致する関係作りを構築する必要がある。 就職率は、例年良好である。 学生の人数の低下もあるが、就職を希望した学生の就職率は100%である。また、施設とのパイプは比較的太いため、施設への紹介をすることが出来るため就職率は高い。 学校主体の就職説明会はないが、求人票の管理、紹介は十分できている。また、履歴書の書き方、面接指導など個別の就職活動への指導ができている。
4.02	・資格取得率の向上が図られているか 年度によって差はあるが、全国平均の国家試験合格率と比較して安定している。 概ね修業年数4年間で卒業し資格修得できる学生が多くなっているものの、今後は既卒へのフォローアップを含め取り組みを検討する必要がある。 国家試験対策に関しては外部教員も導入し、比較的充実していると思われる。 国家試験合格に向け国家試験対策講義、個別相談など体制は整っている。 国家試験対策授業で国家試験専門の講師の講義を取り入れている。 国家試験対策のさらなる拡充など4年次の編成を再考したい。
4.03	・退学率の低減が図られているか 学年担任による面談を通してフォローアップしているため、今後もこまめに学生面談を行い、かつ担任をフォローアップする仕組みも検討する必要がある。 定期的な面談をするなど、学生のフォローアップには務めている。適時学生との会話をする機会を増やすなど低減を図っているが、退学率はやや高い。 学生や親への個別対応は行っている。 担任が、学生と常に話し合い、親御さんとも必要になれば話し合いを行っている。
4.04	・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか 卒業生・在校生からの報告はあるが、学校として情報収集は行われていないため、今後行っていく必要がある。 現状では卒業生の把握する手段およびその内容・項目、評価方法について喫緊に作成すべく取り組む項目として検討している。また在校生についても実態調査を今後視野に入れて取り組む必要がある。 在校生の社会的活躍などの把握は十分できている。一方、卒業生については継続的な状況把握に限度があるため、特定の卒業生の把握・評価にとどまる。 教員個々人では把握しているが、学院として評価等は行っていないため。 積極的な情報収集は行われていない。改善案：同窓会との連携 十分ではないかもしれないが、教員によっては卒後も連絡を卒業生と頻繁にしている。転職後の動向が途切れることもあり、転職後の卒業生の動向を知る手段があるといいが 臨床実習地訪問などの機会や、ボランティア活動などを通して状況を把握している。
4.05	・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。 フィードバックできるだけの資料収集が不十分であるため、今後早急に取り組む項目として検討する必要がある。 現在は卒後教育が重要視され、学内4年間+臨床数年間で段階的にキャリア形成される。そのため学内では基礎的な知識・技能の修得に向けた教育活動を実施している。 卒業後の情報が少なく対応できていない。改善案として、同窓会と連携していく。 個々の教員はしているが、組織としては不十分である。

(5) . 学生支援

5.01	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか 専任教員による支援はされているが、学生が求人票等を閲覧できる環境としては整備の余地がある。 学生が自由に閲覧できるよう整理され、かつ随時学年担任から伝達しているため、今後は再度就職説明会などを計画し直接学生が見聞きできる環境を整える必要がある。 キャリアセンター等はなく専門的な部署は整備されていないが、全教員が学生の相談に応じている。
------	--

No.	評価項目
	現状・課題・改善方策・特記事項等 学校主体の就職説明会はないが、求人票の管理、紹介は十分できている。また、履歴書の書き方、面接指導など個別の就職活動への指導ができている。 相談に来た学生に個別対応は行っているが、進路担当などは決まっていない。整備されているという観点では不十分である。 事務局による成績証明書等の発行物は適宜迅速に発行するなどの対応は学生に好評を受けている。
5.02	・学生相談に関する体制は整備されているか 各学年担任による学生相談をこまめに展開しているため、今後は心のケアを含めた専門知識を有する担当者の配置が必要である。 学生の悩み等に関しては、担任が相談に乗っている。しかし、精神疾患につながるような場合は対応が困難である。改善案として心理カウンセラーを配置する必要がある。体制として不十分であるため。
5.03	・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか 奨学金制度以外にも分納制度などの体制を整え支援しているため、今後は新たなる支援制度を活用しながらさらなる支援を検討する必要がある。 奨学金制度に対する職員を配置し、経済的に困難な学生に対し、家庭環境等を鑑み、特別分納等の特例措置等、支払いできる納金方法を個別に提供している。
5.04	・学生の健康管理を担う組織体制はあるか 身体的な定期健康診断は実施されているため、今後はカウンセリング・心のケアを含む心身のケアについてカウンセラーの設置を検討する必要がある。
5.05	・課外活動に対する支援体制は整備されているか 部活動およびボランティア活動への積極的な参加、福祉機器展への参加は行われているため、今後はそれぞれの課外活動に伴う保険未加入者に対応を検討する必要がある。 教育目標に則った各種イベントなどで支援体制が整備されている。 部活動は推奨され行われているが、学生にとって部費や保険料の負担が懸念されている。改善案として部費の検討をしていく。
5.06	・学生の生活環境への支援は行われているか 個人面談時に聴取および適宜支援するに留まっている。 各学年担任による学校生活による相談を実施しているものの、今後はさらなるフォローをするうえで専門知識を持った者によるフォローを検討する必要がある。 学校でできる生活環境への支援は、学生面談および奨学金制度の紹介など金銭面での支援活動となる。 生活環境への介入は少ない。改善案として相談窓口の配置をすすめる。 担任が、相談に応じている。また、アドバイスなども行っている。
5.07	・保護者と適切に連携しているか 必要に応じて適宜、電話や書面による報告や連絡を行っている。 保護者へ通知としての書面を送付する一方的な情報提供を行っているため、今後は保護者からの意見を受け取るべく方法について取り組む必要性がある。 成績が悪い学生に対しては親との三者・四者面談を行うこともある。 成績不良者に対して親への報告を行っている。また、学生が悩みを抱えている場合、内容によって親に報告を行っているため。 保護者からの問い合わせに対応しているが、事前連携には至っていない。改善案として、必要であれば保護者会の実施していく。 担任が連絡するなどしかない。成績不良者の保護者会を以前行った学年があったが定例化してもいいかもしれない。
5.08	・卒業生への支援体制はあるか 卒業後に新たな就職活動に対して要望があれば支援している。卒業教育の一環として研修会等が行われると良い。 卒業後の図書室利用などへの便宜を図っているため、今後は自己研鑽の場として活用できる提案をする必要がある。 卒業生の研究における学校設備の提供、就職活動の支援、学校で支援できる項目がすくない。卒業生への勉強会・スキルアップ研修等の支援は同窓会が主体で実施しているが不十分であり同窓会との連携していく必要がある。
5.09	・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか 入学時から卒業後には社会に出ることを踏まえ、教育がされている。 書籍による知識の探究に関しては整備されているため、今後は研究活動が展開できるような整備が必要である。 夜間部があるので、概ね良好か。 社会人にも開かれているものの、ニーズのリサーチが不十分で機能していない。

No.	評価項目
	現状・課題・改善方策・特記事項等 今後昼間部のみとなるため、社会人のニーズに対応できる要素がほとんどないと思える。ただし、これまで培った夜間部指導、教育環境のノウハウは応用できる状況。 接遇やコミュニケーション論などの講義が組み込まれている。 社会人に成ってから困らないような教育をしている。 学生貸し出し用PCの充実等。
5.10	・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか 高校ガイダンス等を通じて、理学療法士の啓蒙活動が行えている。 近隣の高校への進路ガイダンスに参加して、職業教育について啓蒙活動をしているため、今後は校内イベントなどを活用しながら専門職種について啓蒙する必要がある。 年2回、理学療法士の啓蒙活動を目的に特別イベントを開催。高校主催の職業紹介に参加。 高校ガイダンスに積極的に参加している。
	(6) . 教育環境
6.01	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 学生教育を行う上では十分な施設・設備は整っているため、今後は学校開設以来使用している設備などの改修、修繕を検討する必要がある。 経年劣化に対する対応が遅くなっている。改善案として定期的な補修が必要。 指定規則にある内容で整備されている。 概ねしている。指定規則改訂に伴い、大幅なリニューアル計画を予定
6.02	・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 臨床実習における実習施設は十分確保され、厚労省の単位を満たしており、指導者会議も行えているため、教育体制は整備されている。 学生の経験値を高める多種の学外実習（臨床実習）施設を設けているため、今後はすべての学生が自宅からでも実習施設へ通える場所になるよう検討する必要がある。 指定規則変更にもともなう実習施設の獲得、実習体制の整備は現在実施中で、教育体制は最低限整備されている。
6.03	・防災に対する体制は整備されているか 防災情報を受信できる設備は整備されているため、今後は緊急対応についてのマニュアルや事前訓練などを検討する必要がある。 学生数分のヘルメットを各教室に配備。 備蓄等の整備はできているが、施設の定期的な整備は遅れている。改善案として定期的な防災に対する学生への意識づけや防災訓練等が必要。
	(7) . 学生の受入れ募集
7.01	・学生募集活動は、適正に行われているか 複数回の受験日の設置や各種推薦入試およびAOといった受験カテゴリーを複数設けているため、今後は体験イベントなどの専門職を体験できる機会を設けて専門職種への理解をしてもらう必要がある。 高校訪問・高校ガイダンス・オープンキャンパス・学校説明会などを実施しており、適正に行われている。
7.02	・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか 教育成果として国家試験合格率および就職率などをアナウンスしているため、今後は進学率や退学数、さらには修学年数など在校生の状況などについてアナウンス項目の検討を行う必要がある。 学校説明会、オープンキャンパスで来校者からの質問に対しては正確な情報を参加者に伝達している。また、高校訪問や説明会でも同様に実施。
7.03	・学納金は妥当なものとなっているか 概ね教育活動する上で妥当と思える学納金であるものの、実施を再検討すべき学校行事などを昨今の経済実情を鑑み再検討する必要がある。 全国と比較をすると平均的だが、一般学部と比較をすると高く、入学者からすると家計をかなり圧迫してしまう。事実、奨学金利用者が大多数である。改善案として授業料の検討か、補修などの還元率をあげる 都心に立地していることなどから概ね妥当であると思える。
	(8) . 財務
8.01	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

No.	評価項目 現状・課題・改善方策・特記事項等
	現在の有利子負債はないが、計画中の新校舎取得のための財源確保のため、有利子負債の発生が見込まれる。
8.02	・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 学生数の減少に伴い、人件費支出をはじめとした消費支出の見直しを図る。
8.03	・財務について会計監査が適正に行われているか 内部監査の更なる充実を図るとともに、会計監査人との関係も強める。
8.04	・財務情報公開の体制整備はできているか 今年度の財務情報公開に向けて、担当部署の設置、役員との情報共有を図る。

(9) . 法令等の遵守

9.01	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 開校以来、法令および専修学校設置基準などを常に順守し、適正な運営を行ってきたため、今後も継続して適正な運営を心がける必要がある。
	設置基準は満たしているが、劣化に対する対応が遅れている。申請単位数を超えて授業が実施されているところも見受けられる。改善案として届出通りの実施を心掛けていく必要がある。
9.02	概ねなされているが、法令等を意識した外部監査が必要ではないか。
9.02	・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 学生・職員の個人情報等、一般的な個人情報保護はなされている。
	教職員からの口頭による注意喚起指導が主な取り扱いであったため、今後は個人情報保護に関わる項目、内容、実施方法などが記載されたマニュアル作成が必要である。
	臨床実習などにおける個人情報管理の指導を講義として実施。
	授業等でも保護に対する認識を持たせるように行っているが、アクシデント実績もある。改善案として定期的な指導の継続をしていく。
9.03	・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか 出来ることから改善をすすめているが、既存の評価内容と評価方法によって実施しているため、今後はより本校の特性を活かした評価が可能な内容であったり、評価方法であったりするよう取り組む必要がある。
9.04	・自己評価結果を公開しているか これまでは行われておらず、今後はホームページでの公開等で、実施していく必要がある。

(10) . 社会貢献・地域貢献

10.01	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 卒業生の勉強会等に施設を提供することはある。他団体に利用してもらったことはあるが、定期的に行えていない。今後は卒業生以外の専門職種や関連職種などからの要望にも応じ、施設を積極的に貸し出す体制の構築が必要である。一方、セキュリティ面で不安も考えられるため十分な検討が必要である。
	学園祭などの時に、理学療法学の公開講座を開催する。
	目黒区・杉並区のボランティアを教員が行っている。
	ちびっ子レスリングの指導を講堂を使用して実施している。
10.02	・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか 病院、介護施設などから依頼されるボランティア活動へ積極的に取り組んでいるため、今後も多方面への学生主体のボランティア活動への推奨を進める必要がある。
	介護老人保健施設や病院からの依頼・募集があった際は学生のボランティア活動の参加を紹介・奨励等、促しているが数は少ない。体系としては整備されていないため、今後、よりボランティアの意識付けをしていきたい。また、ボランティアを休みとする場合の学生への支援も検討が必要か。
10.03	・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか 年2回、理学療法士の啓蒙活動を目的に特別イベントを開催。主な対象を高校生としたため、周知の方法や範囲は不十分（地域への啓蒙活動に至っていない）。文化祭などで学生主催の公開講座を実施し、地域へ開放・紹介できれば良いが、セキュリティ面で実施するのは困難と思う。
	東京都理学療法士協会で行われている公開講座・教育訓練に参加してはいるが受託を積極的に行っていない。今後はリカレント教育の一環として公開講座および教育活動について検討していくとともに地域との関りを深め、学校として可能な地域貢献を推進していく。